学校図書館 Take Off！

No.18

八王子に学校図書館を育てる会

本号の目次

トピックス　子どもゆめ基金助成事業報告 ――――――――――――P. 2
1.　広瀬恒子さん講演会　『子どもの本を楽しもう』紹介図書リスト
2.　読書会（児童書）ブックトーク

図書館見学―帝京大学メディアライブラリーセンター訪問 ――――P. 5
八王子市研究指定校見学　愛宕小学校 ――――――――――――P. 6
これからの予定と情報 ――――――――――――――――――――――P. 8

学校図書館と公立図書館

八王子市立図書館のＨＰの中の子どものページに「八王子たんけん」というレファレンスシートがあります。「八王子城」「千人同心」「絹の道」「松姫さま」「高尾山」などなど、地域についてかなり詳しくまとめてあります。難しい漢字には仮名がふってあり、わかりやすく、しかも写真付きです。

他市の公立学校司書だった私には、これはのどから手がでるほど欲しい資料でした。地域調べに必要な資料は大人向けが多く、小・中学生が読める資料が少ないのが現状です。私が勤務していた自治体の公立図書館には、現在もこのサービスはありません。八王子の学校司書は市立図書館のサービスを利用して、児童・生徒への資料提供を行うことができると思いました。

近隣では、立川市立図書館がＹＡサービスの中で、パスファインダーでの資料提供をしていて、内容は多岐にわたります。公立図書館と学校図書館が連携して、子どもたちの知的好奇心を育てる取組みが進むことを願います。

（田沼恵美子）

八王子に学校図書館を育てる会広報紙
二〇一六年四月十日発行　第十八号

講演会『子どもの本を楽しもう　～最近の子どもの本から』

平成二十七年十二月六日　八王子中央図書館

講師　広瀬恒子さん

（親子読書地域文庫全国連絡会代表）

広瀬恒子さんに今年もお話いただくことがかないました。年に一回、期待の講演会です。

二〇十五年は戦後70年の節目、戦争に関わる出版が活発だったそうです。『子どもたちへ、今こそ伝える戦争　子どもの本の作家たち19人の真実』（講談社）を筆頭に、実際に戦争を体験した最後の世代である児童文学作家、漫画家、ジャーナリスト等から何とか若い世代に戦争を伝えようとしたものが多数出版されました。そんな中、満州からの引き揚げを描いたベストセラー、藤原ていの『新版　流れる星は生きている』(偕成社)については「国内で人々が飢え、物も無い中、満州でこの家族がどれだけ恵まれた生活をしていたかということが書かれていない、70年間ずっとベストセラーと評価されていても、その内容については論議されるべき」とのお話が印象に残りました。

また、児童文学に関わりのない人にもその名を知られる松谷みよ子さんが亡くなりました。作品には戦争や社会問題といったつらい現実が織り込まれていましたが、「タッチが柔らかく決して子どもの目線から離れることがなかった」そうで、赤ちゃん絵本の先駆者でもありました。松谷さんの遺したものはこれからも幅広い世代の中に生き続けることでしょう。

『不思議の国のアリス』、『星の王子さま』、『パール街の少年たち』など古典と呼ばれる名作の復刻版が出たことも特徴的でした。「百年たっても面白い、というのが児童文学を評価するひとつの物差しと言ってよいのではないか」とのことでした。

児童書の出版事情から紐解くと、電子書籍化が進んで本が売れにくいことから、学校図書館向けの学習資料セットが多く出版されたようです。絵本から一人読みへと進む段階に読まれる幼年童話のシリーズは、意欲的に出版されているものの安定したヒット作が出ず、日本の児童文学で課題の部分といえるようです。（紹介図書リスト参照）

お話の中で改めて感じたのは「この本のこういうところが評

価できる。こういう見方がある。」と繰り返し教えてくださっている、ということです。ベストセラーについても「何でも受入れてありがたがっていないで常に自分の頭で考えなさい！」と渇を入れられたような気がします。（S）

広瀬恒子さんが紹介してくださった本の一部

＊「戦後 70 年」のふし目にかかわる出版

『おじいちゃんが孫に語る戦争』
田原総一朗／作、下平けーすけ／絵　講談社

『君たちには話そう　かくされた戦争の歴史』
いしいゆみ／著　くもん出版

『戦場カメラマン渡部陽一が見た世界』全 3 巻
渡部陽一／写真・文　くもん出版

＊自然科学・社会科学・伝記をテーマとした絵本

『アリの巣のお客さん』　丸山宗利／文　小松貴／写真　あかね書房

『さかなだってねむるんです』
伊藤勝敏／写真　島田泰子／文　ポプラ社

『ガザ　戦争しか知らないこどもたち』　清田明宏／著　ポプラ社

『絵本で学ぶイスラームの暮らし』
松原直美／文　佐竹美保／絵　あすなろ書房

『宮沢賢治「旭川。」より』　あべ弘士／文・画　BL 出版

『ジャガーとのやくそく』
アラン・ラビノヴィッツ／作　カティア・チエン／絵　あかね書房

＊幼年童話

『どろぼうのどろぼん』　斉藤倫／著　牡丹靖佳／画　福音館書店

『声の出ないぼくとマリさんの一週間』
松本聡美／作　渡邊智子／絵　汐文社

＊物語

『きみは知らないほうがいい』
岩瀬成子／作　長谷川集平／絵　文研出版

『月にハミング』　マイケル・モーパーゴ／作　杉田七重／訳　小学館

『いのちのパレード』　八束澄子／著　講談社

『川床にえくぼが三つ』　にしがきようこ／著　小学館

＊伝記

『きみ江さん　ハンセン病を生きて』　片野田斉／著　偕成社

『東京駅をつくった男　日本の近代建築を切り開いた辰野金吾』
大塚菜生／著　くもん出版

『万次郎　地球を初めてめぐった日本人』
岡崎ひでただ／作　篠崎三朗／絵　新日本出版社

『高崎山のベンツ　最後の「ボスザル」』　谷口絵理／著　ポプラ社

『生きる　劉連仁の物語』　森越智子／作　谷口広樹／絵　童心社

＊子どもの本にかかわる先達者たちの記録

『ファンタジーを書く　ダイアナ・ウィン・ジョーンズの回想』
ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／著　市田泉／訳　徳間書店

『ひみつの王国　評伝石井桃子』　尾崎真理子／著　新潮社

『子どもと本』　松岡享子／著　岩波書店

11月16日　読書会（児童書）から会員ブックトークの紹介

漂泊の王の伝説 ラウラ・ガジェゴ＝ガルシア　作 松下直弘　訳・偕成社	エキゾチックな世界への導入として紹介。 舞台はイスラムが起こる以前のアラビア半島。主人公ワリード王子が、その詩が掲げられる栄誉を夢見たカアバ神殿から、次につなぐ。
よくわかる世界の宗教 **―イスラム教** R・テイムズ　作・堀内一郎　訳 岩崎書店	現在のカアバ神殿の写真などを紹介。2015秋の大巡礼時に起きた、信者たちが将棋倒しになった事故に触れ、イスラム教についての関心を促し、次へ。
トルコのゼーラおばあさん、メッカへ行く（月刊たくさんのふしぎ2007.10月号） 新藤悦子　文・牡丹靖佳　絵 福音館書店	トルコに住むゼーラおばあさんのメッカへの巡礼話を聞きながら、盛んにニュース報道されているイスラム世界とは違った、普通の人々の生活や信仰を紹介する。 ゼーラおばあさんの住むトルコといえば、で次へ。
救出 **―日本・トルコ　友情のドラマ** 木暮正夫　文・相澤るつ子　絵 アリス館	親日で知られているトルコ。そのきっかけともいえる、125年前に起きたエルトゥールル号の事故と、和歌山県串本の人々の救助活動を紹介。言葉や国を超えた、同じ人間同士の交流を語る。
トルコスキップ歩き トルコ文化センター　編・アートダイジェスト	まとめとして、13世紀トルコの、イスラム教の神学者であり哲学者でもあるメヴラーナの言葉を紹介。 『同じ言語を話す人間同士ではなく、同じ感情を持つ人間同士が理解しあう』を、このブックトークのテーマとする。

（エルトゥールル号の95年後、テヘランからの日本人救出にトルコが尽力した話は、本を紹介したのみ。交流は時をも超えた。紹介した本は書名のみ『東の太陽、西の新月』・『エルトゥールル号の遭難―トルコと日本を結ぶ心の物語』・『プロジェクトX　22　希望の絆をつなげ　撃墜予告　テヘラン発　最終フライトに急げ』・『海の翼―トルコ軍艦エルトゥールル号救難秘録欄』）

9月に続いて開催した読書会。今回は参加者一同お気に入りの児童書を持って集まりました。一人3分では語りつくせない魅力を紹介しあううちに、読書意欲が掻き立てられる時間を共有できたのではないでしょうか。

会員の冒頭ブックトークから、『同じ言語を話す人間同士ではなく、同じ感情を持つ人間同士が理解しあう』をテーマのシナリオをご紹介します。

一覧表にしてしまうと味気なくなりますが、ブックトークの醍醐味は、本そのものの実力もあるのですが、本と本とをつなぐ、紹介者の気の入った語りにあると思います。どれだけその本を好きか、どうやって興味がふくらんでいくのか、そしてどうにかしてそれを伝えたいという思いは、やはりライブでこそ。この形式の読書会は来年度も実施します。ぜひご参加ください。

（M）

図書館見学「帝京大学メディアライブラリーセンター」
～参加者の感想から～

帝京大学図書館では、学生主体の合同チーム『**共読サポーターズ**』の取り組みを拝見しました。

その中で印象に残ったのが、三階と四階の書架です。

驚いたことに、書架の側板には縦長の黒板がはめられていました。チョークで、キャッチコピーやイラストが自由に書かれているのです。側板には磁石付きのラックが貼られていて、一冊ずつ本が乗せられるようになっています。

職員の方から、「サポーターになった学生が割り当てられた書架から一冊本を選び、丁寧に書きあげたのだ」と伺いました。他の学生の目を引くよう工夫された言葉やイラストは、学生らしい若々しさがありとても魅力的です。　空になっているラックが多いことから、他の学生が側板の表現に共感し次々に借りていっているのが見てとれます。側板の効果は、絶大なのです。

この共読の発想を、小中学校の図書館にも取りいれることができるのではないでしょうか。図書委員さんたちの出番を想像して、ワクワクしながら帰途に着きました。

（M）

読書を自己完結型で終わらせずに大学全体を巻き込もうという試みが、まだ大きな流れになっていないのが残念ですが、とても魅力ある図書館でした。

共読サポーターの活動は図書委員会活動のヒントになりました。例えば図書委員が「おすすめの本」を紹介する時は、文学作品に偏りがちなので、ひとりひとりに書架を割り当てて「この棚にある本から選ぶように」すると、子どもの目から見た「気になる本」が発掘されて面白いかもしれません。また、「ＢｏｏｋＢａｔｏｎ」というイベントは、返却時に白紙の帯に「ワクワク」などのスタンプを押すことで、その本を読んだ人同士のつながりを感じられる楽しい企画です。

印象的だったのは、「調べ学習をやっている割には、図書館の使い方を知らない学生が多い」という話を聞いたことです。小中での計画的な図書館活用教育の必要性を強く感じました。

（H）

帝京の大学生が羨ましいと思いましたが、「共読ライブラリー」を利用し、楽しむ学生さんは、やはり限られた人になってくるのだろうとも感じてきました。その限られた環からの広がりを求めて、司書が工夫しているのを強く感じました。

総合ディレクターの松岡正剛氏や大学の先生方の図書館を使ってのとりくみがもう少しあると、またひろがっていくのかもとも思いました。多彩なゲストと学生の問答形式のコーナーも面白かったですが、予算があるんだなぁとも感じました。

（T）

市の研究指定校愛宕小学校の研究発表会に参加

２０１６年１月２６日

テーマ
「自分の考えを深め、
相手にわかりやすく伝えられる子」の育成
～学校図書館の活用を通して～

まず私たち「八王子に学校図書館を育てる会」が特に注目している学校図書館の活用を、二年間学校を上げて取り組まれたことに対して、敬意を表したいと思いました。

全都の中でもこの図書館をテーマに掲げて研究している学校は少数だと聞きます。国語や算数など一般に主要教科と言われている研究校は多いようですが、正面から図書館活用をテーマに研究することはこれからの八王子市の学校教育に多大な影響をもたらすことに違いないと思います。

当日の様子

子供たちが一生懸命学習に参加している様子を見ることができました。それぞれの学年で発達段階に合わせて工夫されていることがよくわかりました。

四年生の「総合的な学習の時間」の図書館での授業を中心に参観しました。授業内容は、「都道府県の大使になろう」というテーマで、各都道府県の名所や特徴などを調べ、まとめ、発表するものです。当日は調べる様子が見られましたが、担任と図書館司書とのタッグを組んだ授業で、それぞれの役割を生かした授業でした。資料として、ポプラディアを５セットも用意して対応していました。

担任と図書館司書との協力は、このような授業の中では不可欠なもので、一つのモデルとして、参観者の目に焼き付いていたと思います。

しかし、学校図書館司書が週一回の学校勤務体制では、どの学年にも十分な協力はできないだろうと想像するのはたやすいことです。理想の形になることを願わずにはいられませんでした。

ところで、この研究の特徴として注目すべきことは全学年が統一された情報カードを活用していることがありました。

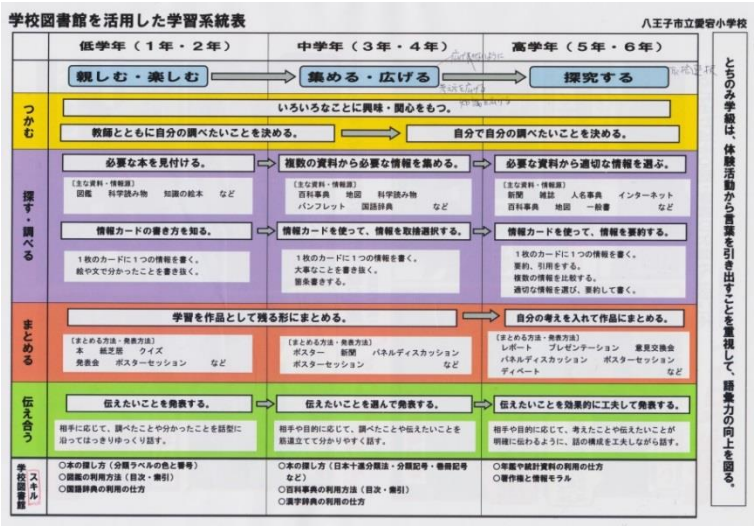
情報カード

情報カードというのは、自分が調べた内容を、書き記していくものですが、ノートではなくカードにしていくことで、後々それらをまとめ作品にしていくのに大変有効な方法です。一枚のカードに、一つの情報を記入していくというのが基本ですが、それを学年に応じてきちっと指導されていました。

学習系統表

次ページに紹介する学習系統表は、学校図書館の活用法を、低、中、高と系統的にコンパクトにまとめています。それをもとにして学習を組み立てていることは重要なことです。どの学校もこの表を参考にして学

校独自のものを作るとよいでしょう。あるいは、市の指導課が全教員に印刷配布して、啓蒙することだってできると思います。ぜひ有効活用されるといいと思いました。



学校図書館を活用した学習系統表

八王子市立愛宕小学校

	低学年（１年・２年）	中学年（３年・４年）	高学年（５年・６年）
	親しむ・楽しむ	集める・広げる	探究する
つかむ	いろいろなことに興味・関心をもつ。 教師とともに自分の調べたいことを決める。	自分で自分の調べたいことを決める。	
探す・調べる	必要な本を見付ける。 〔主な資料・情報源〕図鑑　科学読み物　知識の絵本　など 情報カードの書き方を知る。 １枚のカードに１つの情報を書く。絵や文で分かったことを書き抜く。	複数の資料から必要な情報を集める。 〔主な資料・情報源〕百科事典　地図　科学読み物　パンフレット　国語辞典　など 情報カードを使って、情報を取捨選択する。 １枚のカードに１つの情報を書く。大事なことを書き抜く。箇条書きする。	必要な資料から適切な情報を選ぶ。 〔主な資料・情報源〕新聞　雑誌　人名事典　インターネット　百科事典　地図　一般書　など 情報カードを使って、情報を要約する。 １枚のカードに１つの情報を書く。要約、引用をする。複数の情報を比較する。適切な情報を選び、要約して書く。
まとめる	学習を作品として残る形にまとめる。 〔まとめる方法・発表方法〕本　紙芝居　クイズ　発表会　ポスターセッション　など	〔まとめる方法・発表方法〕ポスター　新聞　パネルディスカッション　ポスターセッション　など	自分の考えを入れて作品にまとめる。 〔まとめる方法・発表方法〕レポート　プレゼンテーション　意見交換会　パネルディスカッション　ポスターセッション　ディベート　など
伝え合う	伝えたことを発表する。 相手に応じて、調べたことや分かったことを話型に沿ってはっきり中くっり話す。	伝えたいことを選んで発表する。 相手や目的に応じて、調べたことや伝えたいことを筋道立てて分かりやすく話す。	伝えたことを効果的に工夫して発表する。 相手や目的に応じて、考えたことや伝えたいことが明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら話す。
学校図書館スキル	○本の探し方（分類ラベルの色と番号） ○図鑑の利用方法（目次・索引） ○国語辞典の利用の仕方	○本の探し方（日本十進分類法・分類記号・巻番記号など） ○百科事典の利用方法（目次・索引） ○漢字辞典の利用の仕方	○年鑑や統計資料の利用の仕方 ○著作権と情報モラル

とちのみ学級は、体験活動から言葉を引き出すことを重視して、語彙力の向上を図る。

親しむ・楽しむ⬇集める・広げる⬇探究する

この学年に応じたテーマは、子供たちの発達段階をよくとらえています。低学年は、とにかく楽しむことが大きい。そこから自分の意欲を育てていく。そして中学年になると、その楽しみや知的好奇心をどんどん広げていく。そして活動的になる。高学年になるとそれら興味のあることを深く調べようとする。こうやって、知的探究心がより強くなるのです。

情報カードの書き方を知る

⬇情報カードを使って、情報を取捨選択する

⬇情報カードを使って、情報を要約する

情報カードも発達に応じて、書き方を指導しています。高学年になっても、また、中高大学生になっても資料からの抜き書きの方法や、要約することなど不慣れな児童生徒が少なくないとも聞きますが、そのあたりも基本として、小学生段階で指導していく必要があるでしょう。

日常の学習活動の中で

講師の鎌田先生（帝京大学）もおっしゃっていましたが、この研究が、今後も特別なものとならないよう日常の学習の中で、普通に、自然に取り入れられるように期待します。学校図書館を活用した学習活動は、子供たちの学習意欲を向上させるに違いありません。

文責：　宮本

これからの予定

平成28年度も、学校図書館の充実や子どもたちの読書を応援するさまざまな活動を行う予定です。読書会（会員によるブックトークと参加者の交流）、絵本作家さんを招いた講演会、そして本会恒例の広瀬恒子さん講演会などを企画しています。

また、会員内部の研修として学校図書館見学会や学習会も予定しています。興味のある方はお問い合わせください。

情報

◇「ひらこう！学校図書館　第20回集会」

日時　7月9日（土）10時半から16時半

会場　日本図書館協会

① 記念講演

「学校教育はいまー試される市民の良識と力」

講師　藤田英典 氏

② 報告と質疑応答　「学校図書館における業務委託などの問題について（仮）」

コメンテーター　松岡　要　氏

◇「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」の配付資料と議事録が以下に掲載されています。

・議事録

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/115/gijiroku/1367404.htm

添付資料

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/115/shiryo/1366784.htm

会員募集

正会員…本会のすべての活動に参加できます。

入会金500円、年会費1000円です。

賛助会員…広報紙やイベントの情報をお届けします。本会の活動を支援してくださる個人、団体の方。

年会費一口　1000円です。

――編集後記――

平成28年度から、いよいよ八王子市内全小中学校に学校司書さんが派遣されることになりました。週に一日とはいえ、すべての学校で学校図書館を活用する授業が始まることに期待が膨らみます。学校図書館にかかわるすべての人が、子どもたちの学びを支える存在として尊重されることを願います。（O）